

品目：じゃがいも

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数)

化学肥料(窒素成分量)

2成分以下

8kg/10a 以内

技術体系例 じゃがいも

生育ステージ 防除時期	作付前	植付前	生育期間中							
	作付体系	植付前	全般			生育中後期				
防除方法・ 使用資材・ 薬剤名等	ほ場ローテーション	種子消毒	病害株の引き抜き	ほ場の排水	ほ場周辺の除草・ グラウンドカバープランツ の利用	殺虫剤	殺菌剤	(臨時防除)殺菌剤	殺菌剤	B T 剤
土壌病害虫	★									
黒あざ病		●	★							
そうか病	★			★						
アブラムシ類					★	●				
ハスモンヨトウ					★					★
オオニジュウヤホシテントウ					★	●				
ジャガイモガ					★					
疫病			★	★			★	●	★	
夏疫病				★				●		
軟腐病				★			★		★	
(例)使用農薬		モンカッタ水和剤				ジェイエース水溶剤	ジーファイン水和剤	(ペンコゼブ水和剤)	Zボルドー	ゼンターリ顆粒水和剤
化学合成農薬成分数		1				1		(1)		

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグラウンドカバープランツを植栽する。

病気 **そうか病**

発生しやすい時期

春植えで発生が多くなります。

原因（発生要因）

- ・ 種いもについている病気を起こす原因のカビから伝染します。
- ・ 土の中にいるカビからも伝染します。
- ・ 未熟なたい肥を鋤き込むと、たくさん発生します。
- ・ 土がアルカリ性になると、発生しやすくなります。



そうか病

対策（減農薬技術）

- ・ 栽培するほ場では、連作を避けます。
- ・ 土をアルカリ性にしないため、栽培前の石灰は半分にします。
- ・ たい肥や有機物を使う場合は、完熟したものを使います。
- ・ ほ場の排水をよくします（畝を高めにする、溝を付ける）。
- ・ 男爵は、そうか病が出やすいので、そうか病の多いほ場では他の品種を栽培します。
- ・ いもができるときにほ場の土が乾くと増えやすいので、水やりをします。

病気 **疫病**（えきびょう）

発生しやすい時期

5月下旬～6月、11月

原因（発生要因）

- ・ 土にいるカビにより発生します。
- ・ 水はけの悪いほ場で多く発生します。
- ・ 曇や雨の天気がつづいたあとによく発生します。



疫病

対策（減農薬技術）

- ・ ほ場の水はけを良くします（高うね、溝をきる）。
- ・ 葉が軟弱で、茂りすぎると出やすくなるので、肥料のやり過ぎに注意します。
- ・ ほ場をこまめに見回って、病気にかかった株は、抜きとってほ場の外に持ち出します。

害虫 **オオニジュウヤホシテントウ**

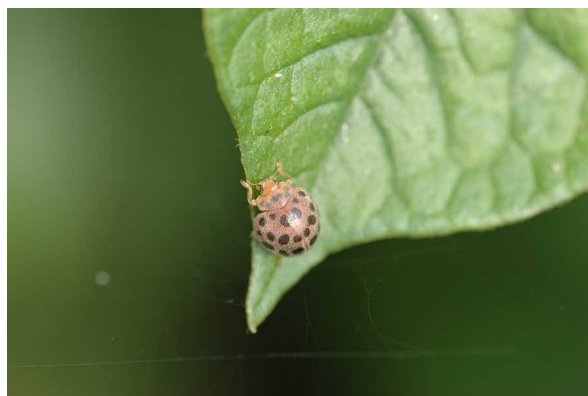
（別名：テントウムシダマシ）

発生しやすい時期

9月中旬頃～9月下旬頃

原因（発生要因）

- ・ ほ場の外（近くにあるなすや雑草）から成虫が飛んできて葉を食べます。
- ・ 飛んできた成虫が卵を産みます。
- ・ 卵からかえった幼虫も葉を食べます。
- ・ 雨が少なく乾燥する年には、発生が多くなります。



オオニジュウヤホシテントウ(豆類)

対策（減農薬技術）

- ・ ほ場周辺の雑草から飛んでくるので、除草をします。
- ・ はじめは、被害箇所が集中しているので、ほ場をよく見回り広がるまえに農薬を散布します。アブラムシなどと同時に効果がある農薬を使用するとよいでしょう。